

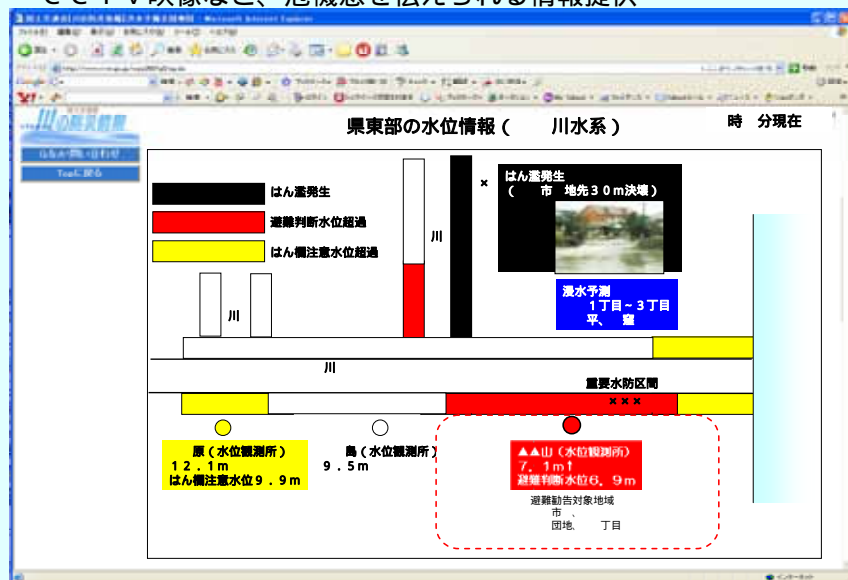
## 先行実施プロジェクトのイメージ

テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、CATV等あらゆるツールから情報が提供され、いつでも、どこにいても容易に必要な情報にアクセスできる。

## 水位情報のわかりやすい表示(イメージ)

平成20年度  
荒川水系で実施予定

視認性のある水位情報の提供  
水位だけでなく、対象となる地域名をきめ細かく情報提供  
CCTV映像など、危機感を伝えられる情報提供



## 地上デジタル放送の活用(イメージ)

平成19年度  
実証実験実施

河川情報や土砂災害警戒情報など、視聴者の周辺の情報を自動的に選択し、分かりやすく提供

【インターネットや携帯電話等による情報提供との違い】

- ・パソコンや携帯電話等の情報機器に不慣れな人にも使いやすい。
- ・PUSH型の情報提供に適している。

【アナログ放送との違い】

- ・視聴する場所に応じた情報の提供ができる。(7桁の郵便番号エリア)
- ・データ放送により欲しい情報を選択できる。

最寄りの水位観測所において避難判断水位を超過した場合に自動的に速報メッセージが表示される機能

最寄りの水位観測所が自動的に選択され情報が表示される機能

データ放送による  
水位情報を表示



詳細な水位情報の表示(インターネット)



## VICSによる河川情報提供(イメージ)

平成20年度試行にむけて検討

「VICS」とは、VICSセンターで編集、処理された渋滞や交通規制などの道路交通情報・河川情報をリアルタイムに送信し、カーナビゲーションなどの車載機に文字・図形で表示する画期的な情報通信システムである。VICS情報は24時間365日提供している。



「1キロ先道路浸水のため、車線規制があります」

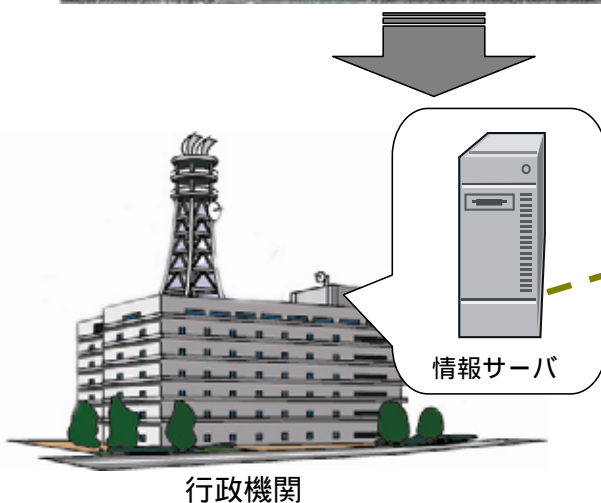
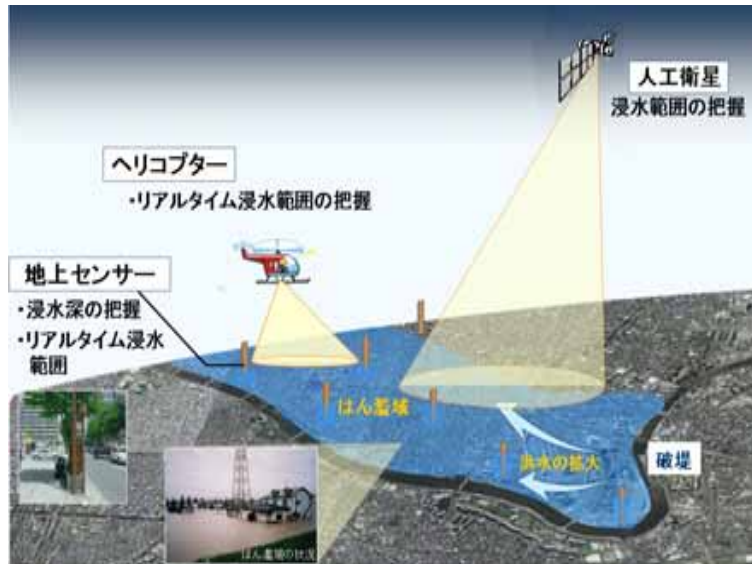


「1キロ先 川堤防決壊のため、通行止めです」

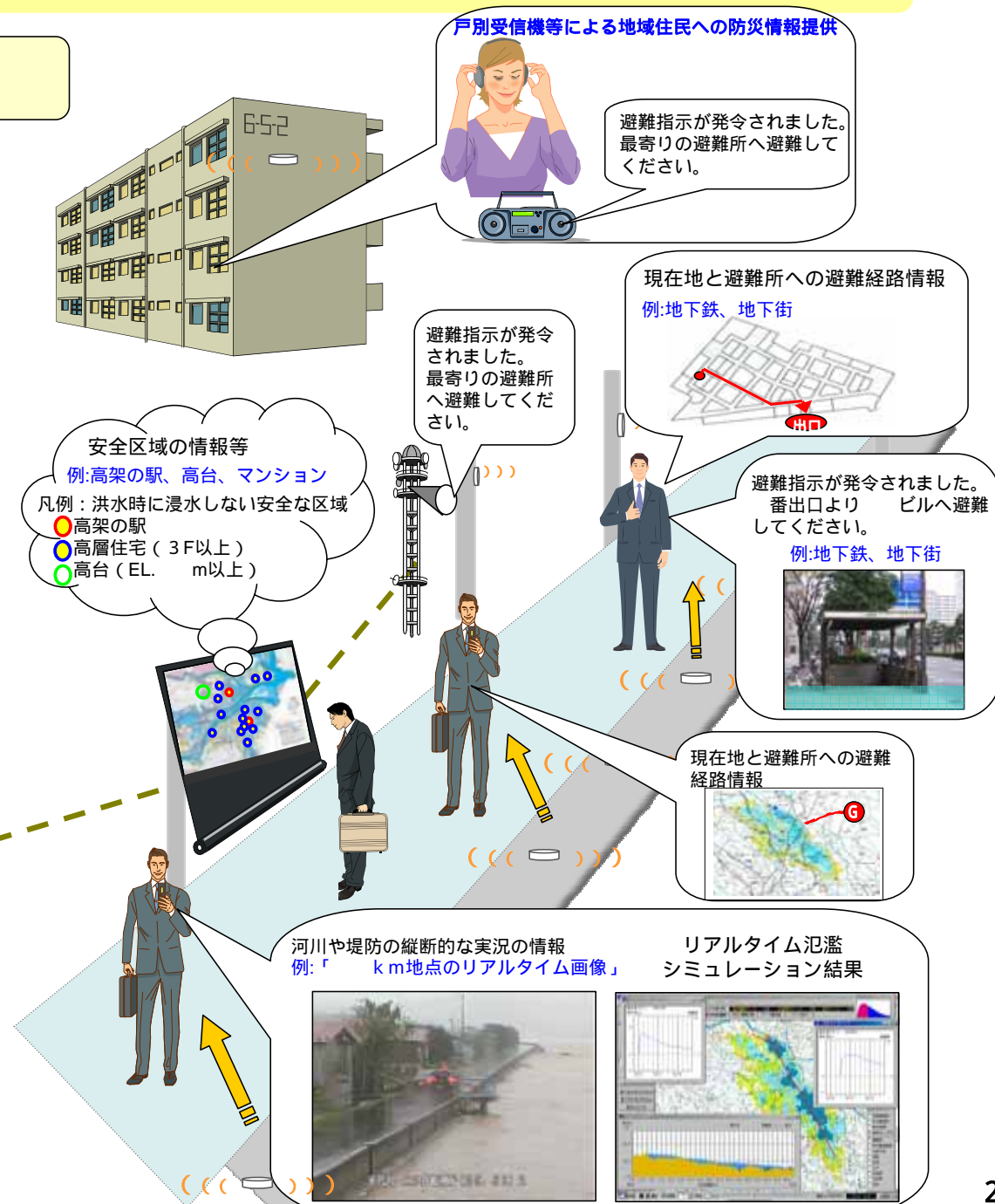
# ユビキタスネットワークを活用した避難誘導支援（イメージ）

あらゆる場面において、その場で必要な情報に、「いつでも、どこでも、だれでも」アクセスできるように伝達手段の多様化、情報の質の高度化を図る。

携帯電話、GPSの電波が届かない場所でも情報を取得することが可能  
土地に不案内であっても避難経路情報を取得することが可能



携帯電話等の携帯端末  
テレビ、ラジオ、防災行政無線等

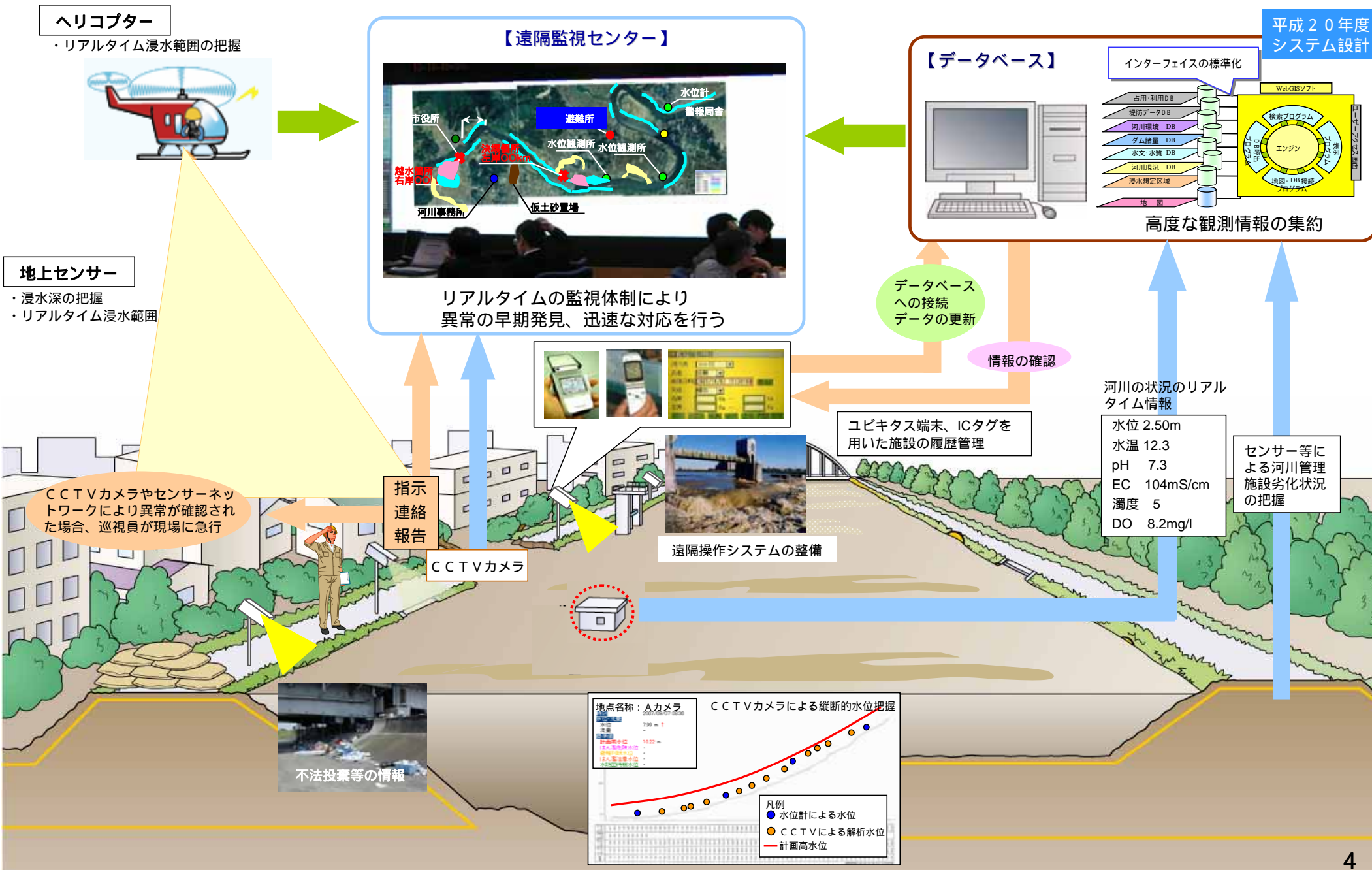


河川管理者と住民等は双方向情報プラットフォームにより、現場の状況、河川管理者の対応等の情報を共有できる

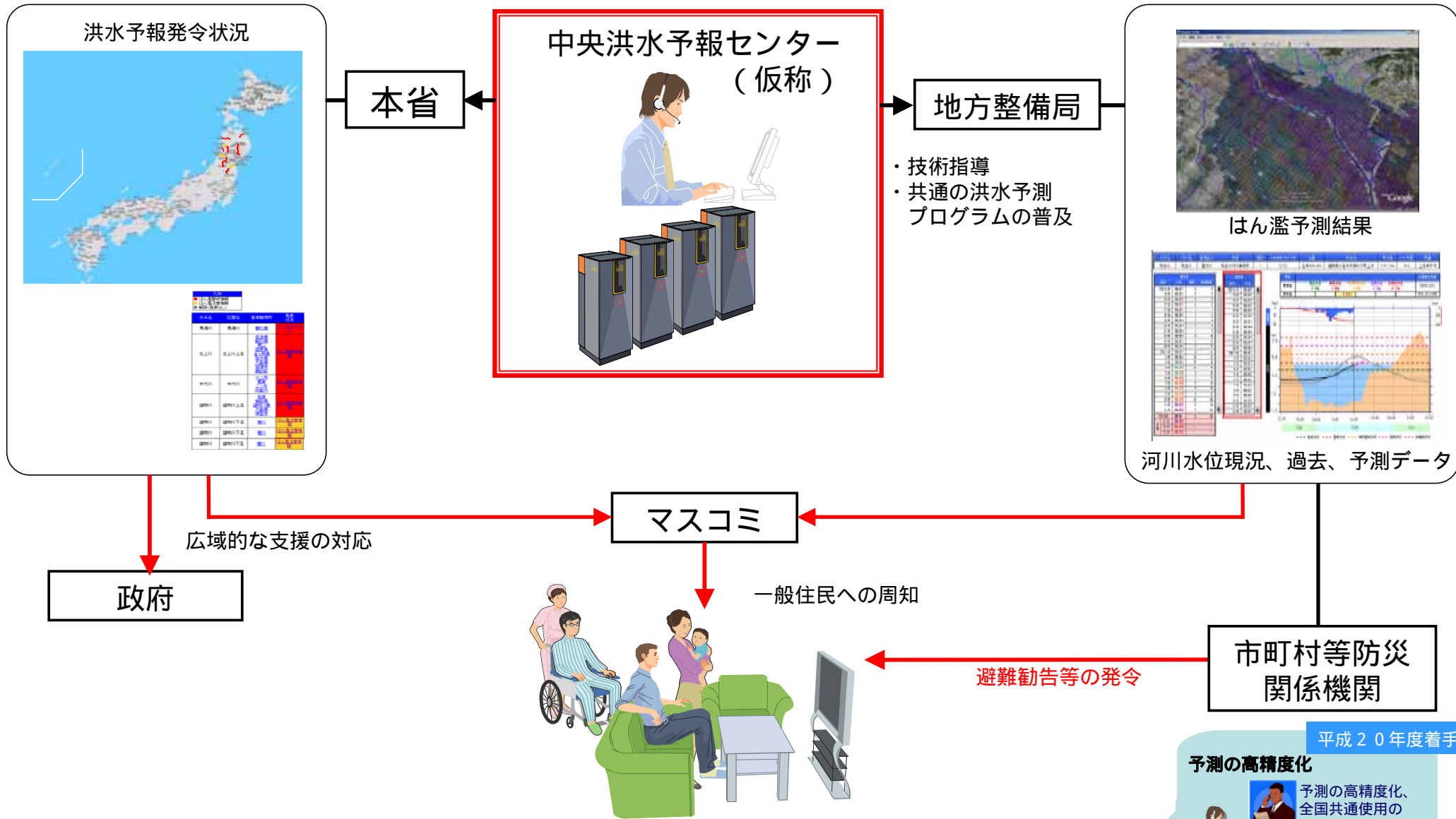


# 線的・面的・時間的にきめ細やかな監視の実現に向けた技術開発（イメージ）

- ・ CCTVカメラやセンサーネットワークにより、河川空間全体をリアルタイム、線的・面的に自動監視
- ・ センサー等を利用した施設の劣化状況の把握技術や IC タグ等を活用した施設の履歴管理情報（河川管理カルテ）把握システムの整備により、一層効率的な維持管理を実現



洪水予測（氾濫予測を含む）に関する情報発信を一元的に行うセンター機能（組織、仕組み、コンテンツなど）の整備



1. 平常時は洪水予報の技術的支援・指導を行い、洪水予報の高精度化を図る
2. 各洪水予報機関からの情報を全国でとりまとめ、速やかに広域的な支援に対応する
3. 降雨予測技術の高度化等の調査・研究を行う

平成 2 0 年度着手

**予測の高精度化**

予測の高精度化、全国共通使用の洪水予測・予警報システム等の整備

平成 2 1 年度着手

**長期予測による施設の有効利用**

弾力的に容量を調整

ダム

ダム

ダム

ダムの弾力的運用